

国境離島への往来促進に関する調査 (中間報告)

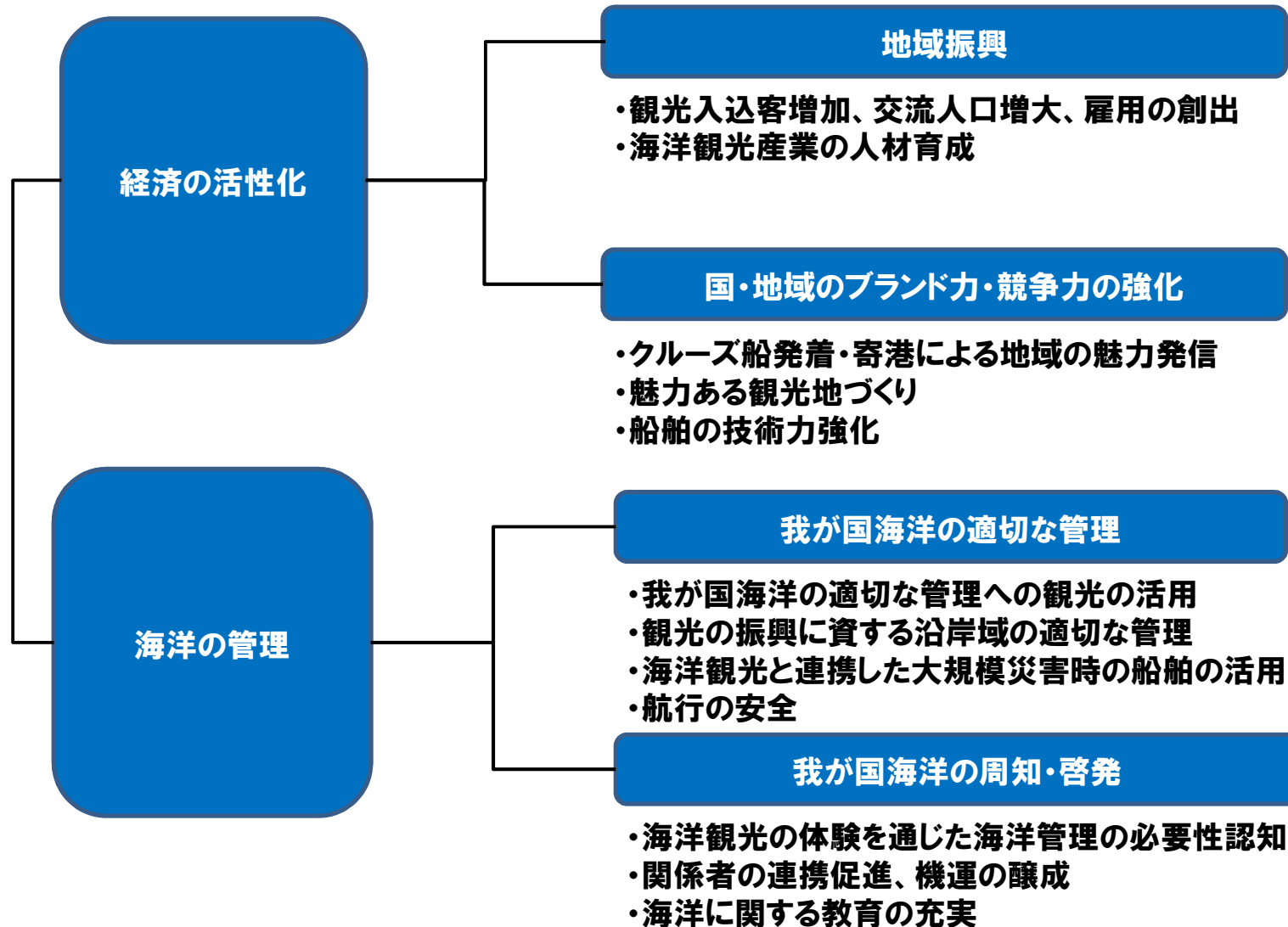
1. 南鳥島への観光需要に関する調査
 2. 海洋の多面的価値の普及啓発に関する調査
-

2015年2月13日

国土交通省 総合政策局
調査受託 : ランドブレイン株式会社

0. 「海洋観光の振興に関する検討会」とりまとめ結果

「海洋観光」の意義



0. 調査の目的、背景

海洋観光の振興に向けての最終とりまとめ

(平成26年6月 海洋観光の振興に関する検討会)

海洋観光の課題と今後の取組の方向性等について、以下の7項目に分類した。

- | | |
|-------------------|----------------|
| ① 海洋観光の魅力の発掘・磨き上げ | ② 魅力の情報発信手法 |
| ③ 産業創出・振興 | ④ 離島振興 |
| ⑤ 我が国海洋の周知啓発 | ⑥ 海洋観光に係る人材の育成 |
| ⑦ 関係者の連携 | |

国土交通省内の関係部局にて、フォローアップの取組を推進中。

総合政策局では、委託調査業務を活用し、以下の取組を実施。

① 南鳥島への観光需要に関する調査

- 我が国海洋の適切な管理へ、観光を活用する方法を模索。
- 我が国最東端の南鳥島への観光ツアーについて、潜在的な需要があるか調査中。

② 海洋の多面的価値の普及啓発に関する調査

- 海洋に関する教育、体験など、海が持つ多面的な側面を若年層への普及啓発するための効果的な取組事例を調査中。

1. 南鳥島への観光需要に関する調査

南鳥島へのアクセス(東京から南東方角に約1,950km)

船舶 (横浜より旅客船で約4~5日)

航空機 (東京本土よりプロペラ機で約4時間)



1. 南鳥島への観光需要に関する調査

南鳥島の概要

- ✓ 日本の最東端 (東京都小笠原村)
- ✓ 1辺約2km、面積約1.51km²
- ✓ 1898年に「南鳥島」と命名
- ✓ 1968年米国より返還
- ✓ 政府職員 (気象庁、防衛省、関東地方整備局) 約25名が生活
- ✓ 海上自衛隊管理の滑走路はあるが、船舶・航空機ともに民間の定期便はなし



出典：国土交通省「南鳥島の概要」

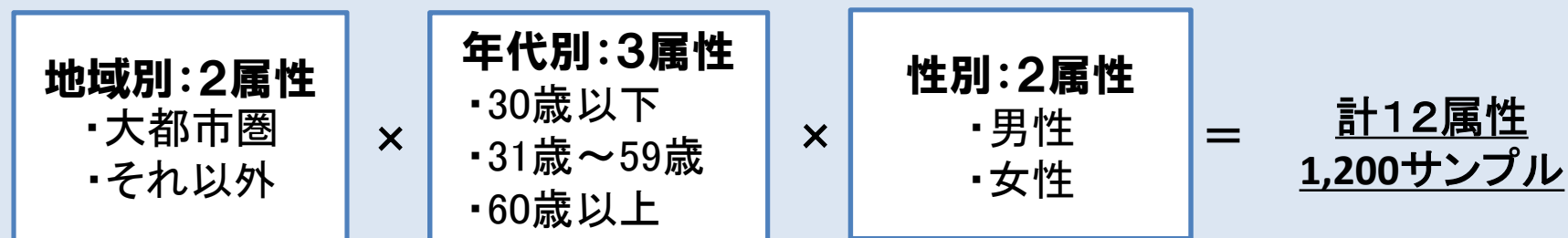


出典：国土交通省「南鳥島の概要」

1. 南鳥島への観光需要に関する調査

①インターネットアンケート

- 南鳥島への一般の方の観光需要を把握するために、地域別、年代別、性別の計12属性(2×3×2属性)について、それぞれ100サンプル回収(合計1,200サンプルを回収※)



※アンケート時に、「南鳥島に来訪したいと思いますか」という設問に対し、「南鳥島だけでも来訪したい」、「他の離島や外国観光地とセットなら来訪したい」、「どちらとも言えない」のいずれかを選択した回答者を抽出した。

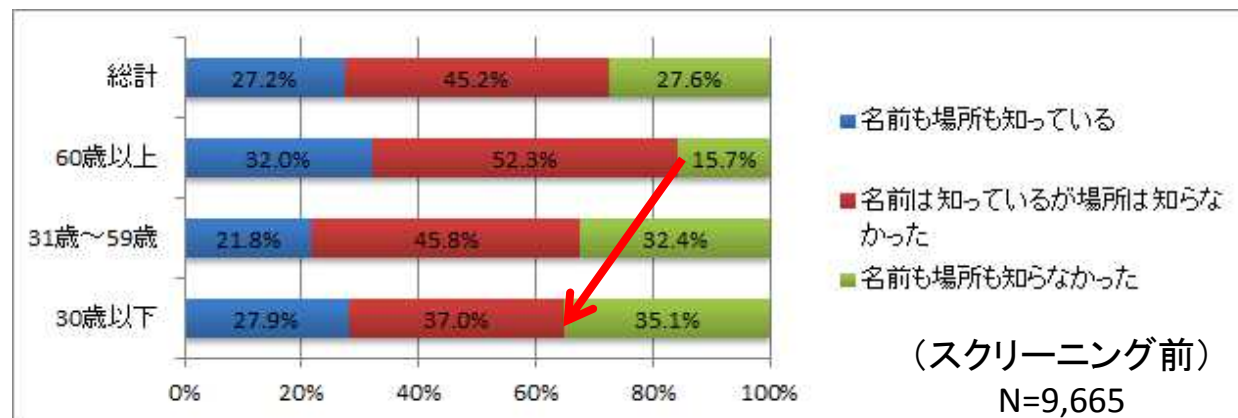
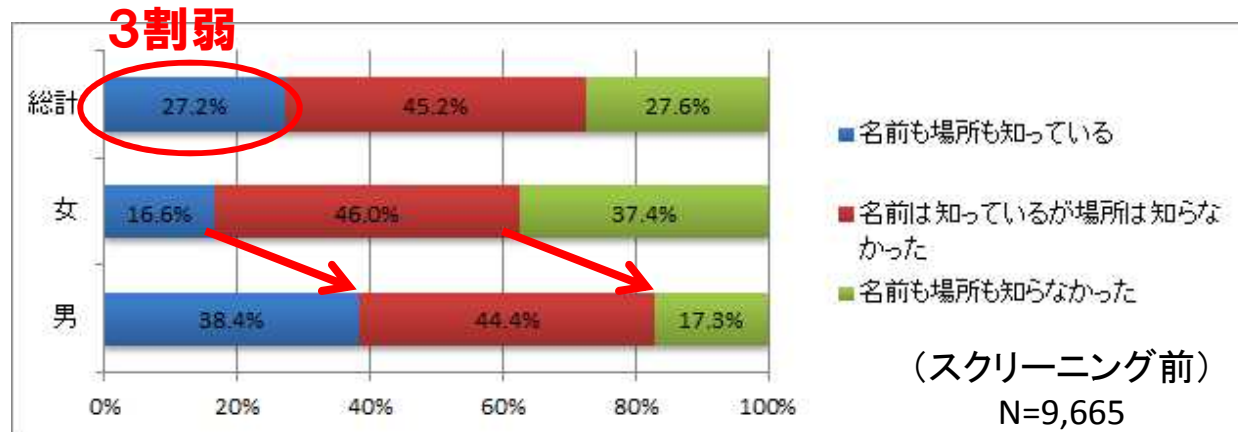
②関係者ヒアリング

- インターネットアンケート調査結果を踏まえて、航路・クルーズ事業者及び小笠原村に、ヒアリングを実施
- 南鳥島に関する普及啓発方法や観光資源、規制などについて意見を聴取

①インターネットアンケート 結果概要

南鳥島について知っていたかどうか？（名前、場所）

- 「名前も場所も知っている」割合は3割弱
- 女性より男性の認知度が高い
- 年齢層が低いほど認知度がやや低い

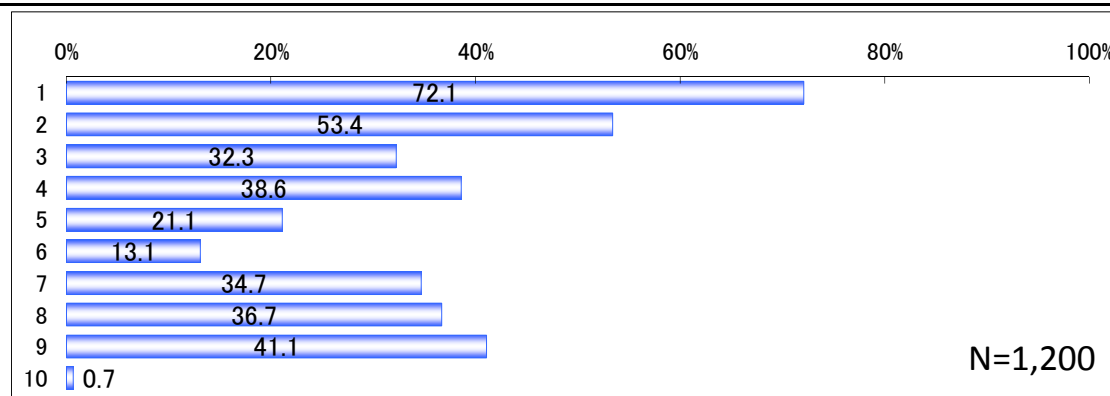


①インターネットアンケート 結果概要

南鳥島について魅力を感じる資源(複数回答)

- 珊瑚礁、南十字星、ビューポイント等、景観に関連する観光資源に対する関心が高い。
- 希少種の存在、日本一早く朝日が見える、日本の最東端等、「南鳥島ならではの」の観光資源については、3~4割程度の関心。

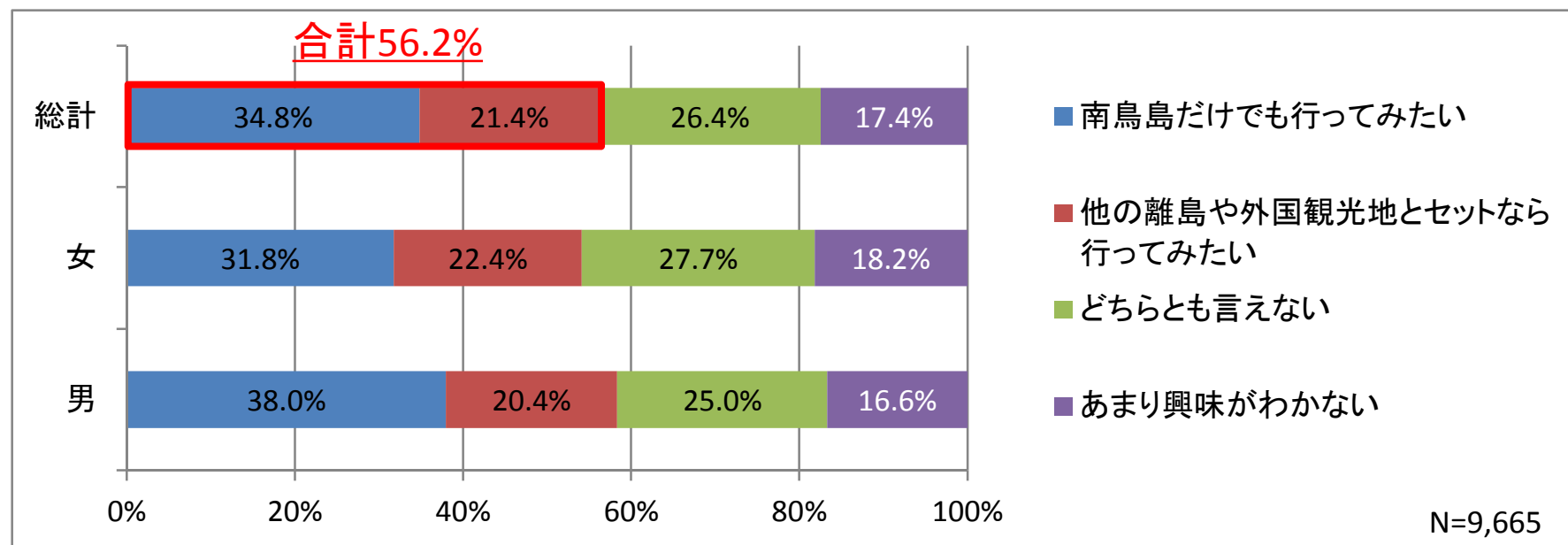
	n	%
全体	1200	100.0
1 島の周囲を取り囲む水深1.5mほどの珊瑚礁	865	72.1
2 南十字星(12月前半~6月末にかけて観測可能)	641	53.4
3 日本一早く朝日が見える	387	32.3
4 ミナミトリシマヤモリ、アホウドリ等の希少種	463	38.6
5 太平洋戦争時代の戦車や大砲の残骸	253	21.1
6 駐在している自衛隊員、気象庁職員、国土交通省職員の業務や生活の様子	157	13.1
7 海洋権益確保の役割(南鳥島が存在することで、我が国は広大な排他的経済水域※(EEZ)を有する)	416	34.7
8 地理的な特徴(日本最東端)	440	36.7
9 周辺海域における各種ビューポイント(砂浜、島の遠望等)	493	41.1
10 その他()	8	0.7



①インターネットアンケート 結果概要

南鳥島への来訪意向(行ってみたいと思うかどうか)

- 「南鳥島だけでも行ってみたい」、もしくは「他の外国観光地とセットなら行ってみたい」と回答する割合が過半数(56.2%)を占める。
- 女性よりも男性の方が若干来訪意向が強い。

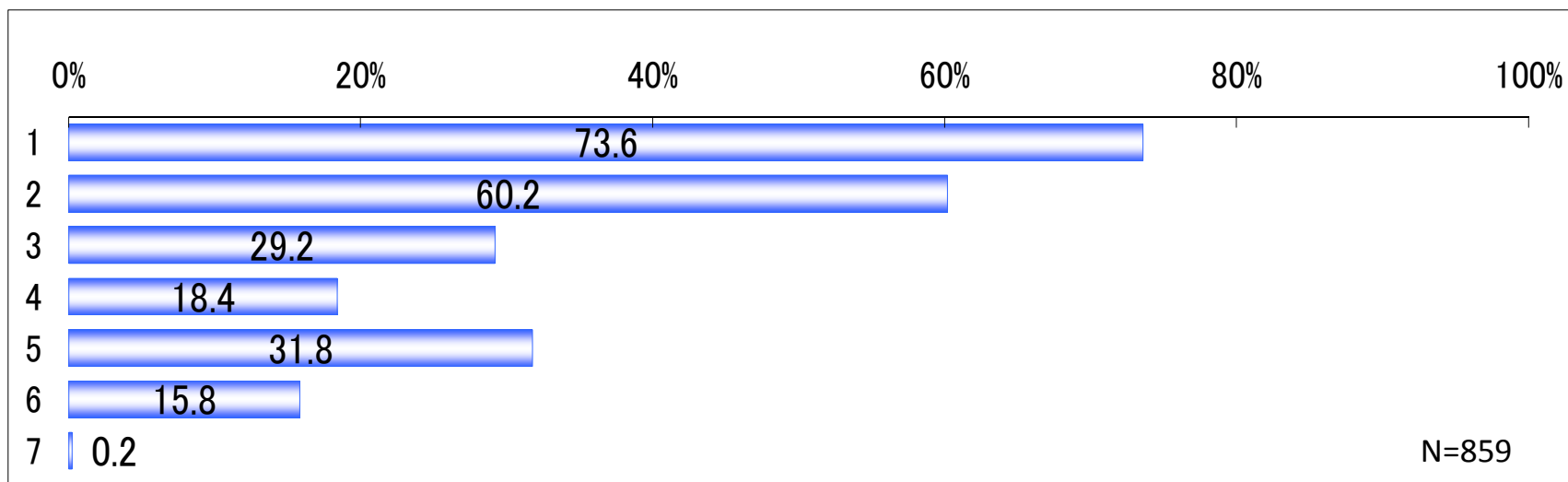


①インターネットアンケート 結果概要

南鳥島への船舶航海中に欲しいと思われるアクティビティ(3つまで選択)

- 星空観測、ホエールウォッチングなど観測に対する関心が高い。
- 歴史に関する講演・学習会、我が国を取り巻く海洋の状況に関する勉強会など、「学び」に対する関心は比較的低い。

	n	%
全体	859	100.0
1 星空観測	632	73.6
2 ホエールウォッチング	517	60.2
3 ディナーショー(演奏会、上映会等)	251	29.2
4 南鳥島の歴史に関する講演・学習会	158	18.4
5 南鳥島の自然に関する講演・学習会	273	31.8
6 我が国を取りまく海洋の状況に関する勉強会	136	15.8
7 その他()	2	0.2

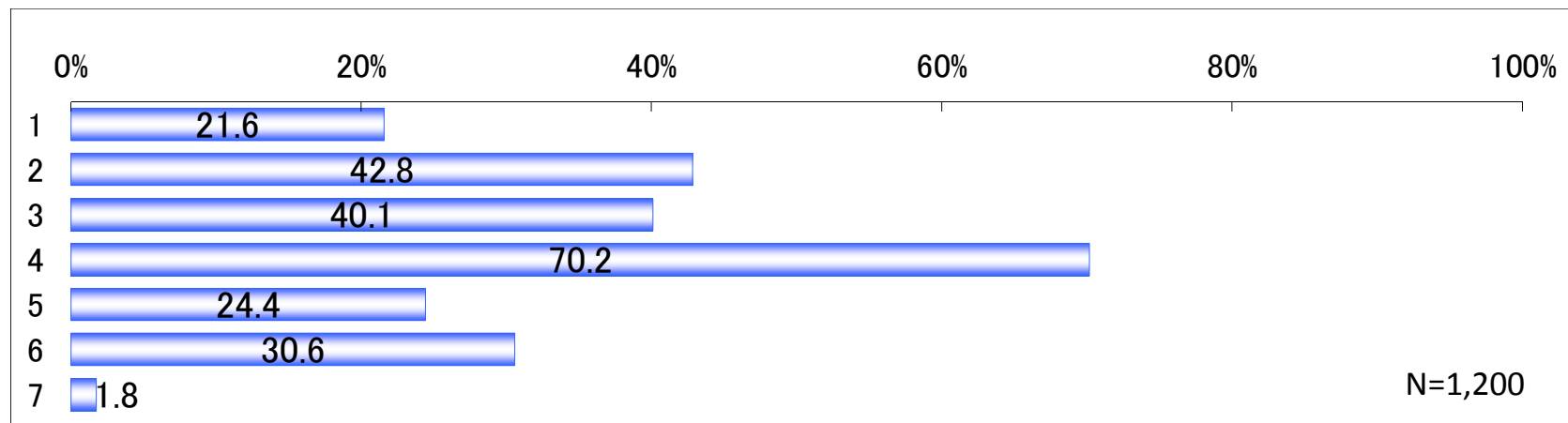


①インターネットアンケート 結果概要

南鳥島滞在中に欲しいと思われるアクティビティ(3つまで選択)

- 「星空観測会」が最も多く、次いで「遊泳や日光浴等の浜遊び」、「バーベキュー等の陸上でのアウトドア活動」の順に関心が高い。

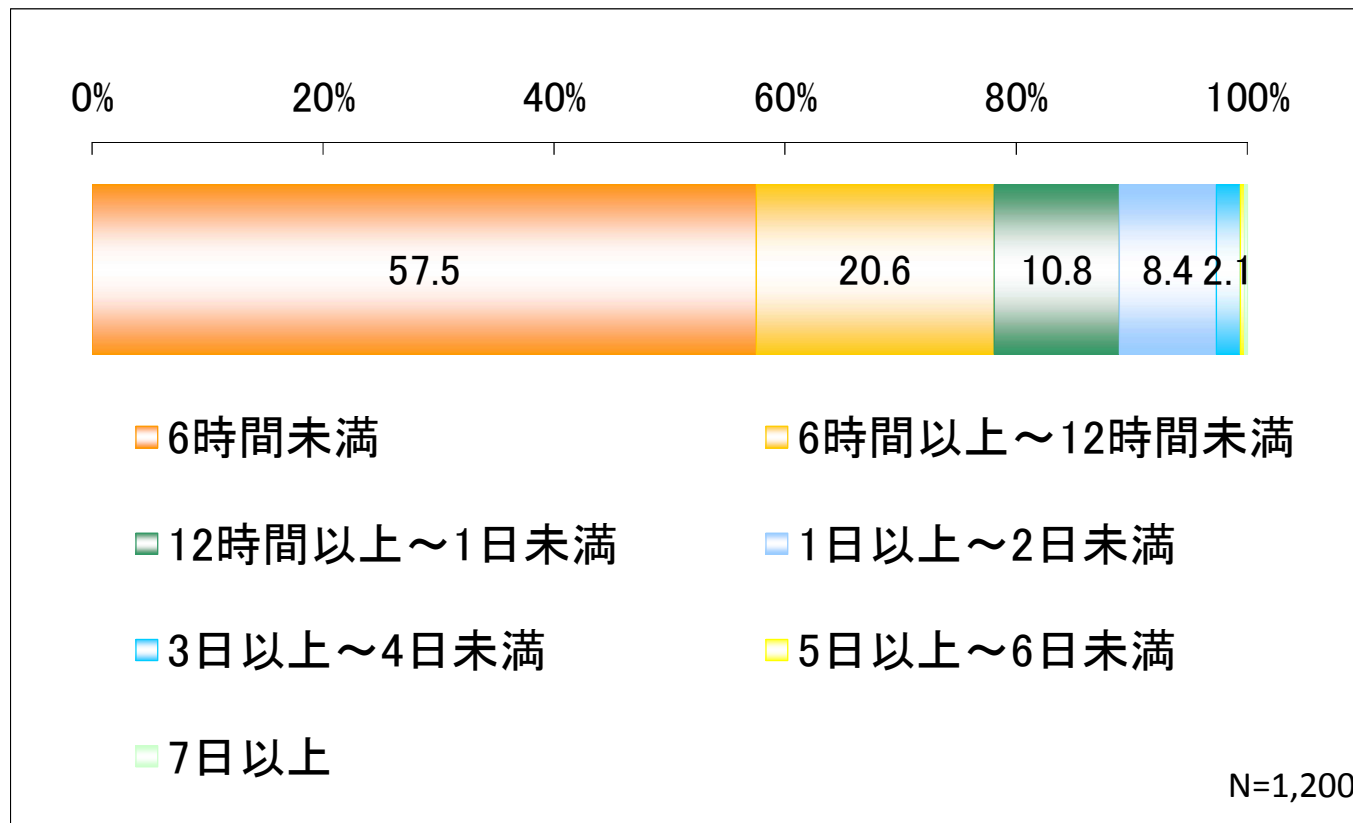
	n	%
全体	1200	100.0
1 駐在職員的生活を擬似体験するツアー	259	21.6
2 遊泳や日光浴等の浜遊び	514	42.8
3 バーベキュー等の陸上でのアウトドア活動	481	40.1
4 星空観測会	842	70.2
5 海釣り	293	24.4
6 マリンスポーツやマリンレジャー	367	30.6
7 その他()	21	1.8



①インターネットアンケート 結果概要

本州もしくは最寄りの離島から南鳥島までの、適当な移動時間

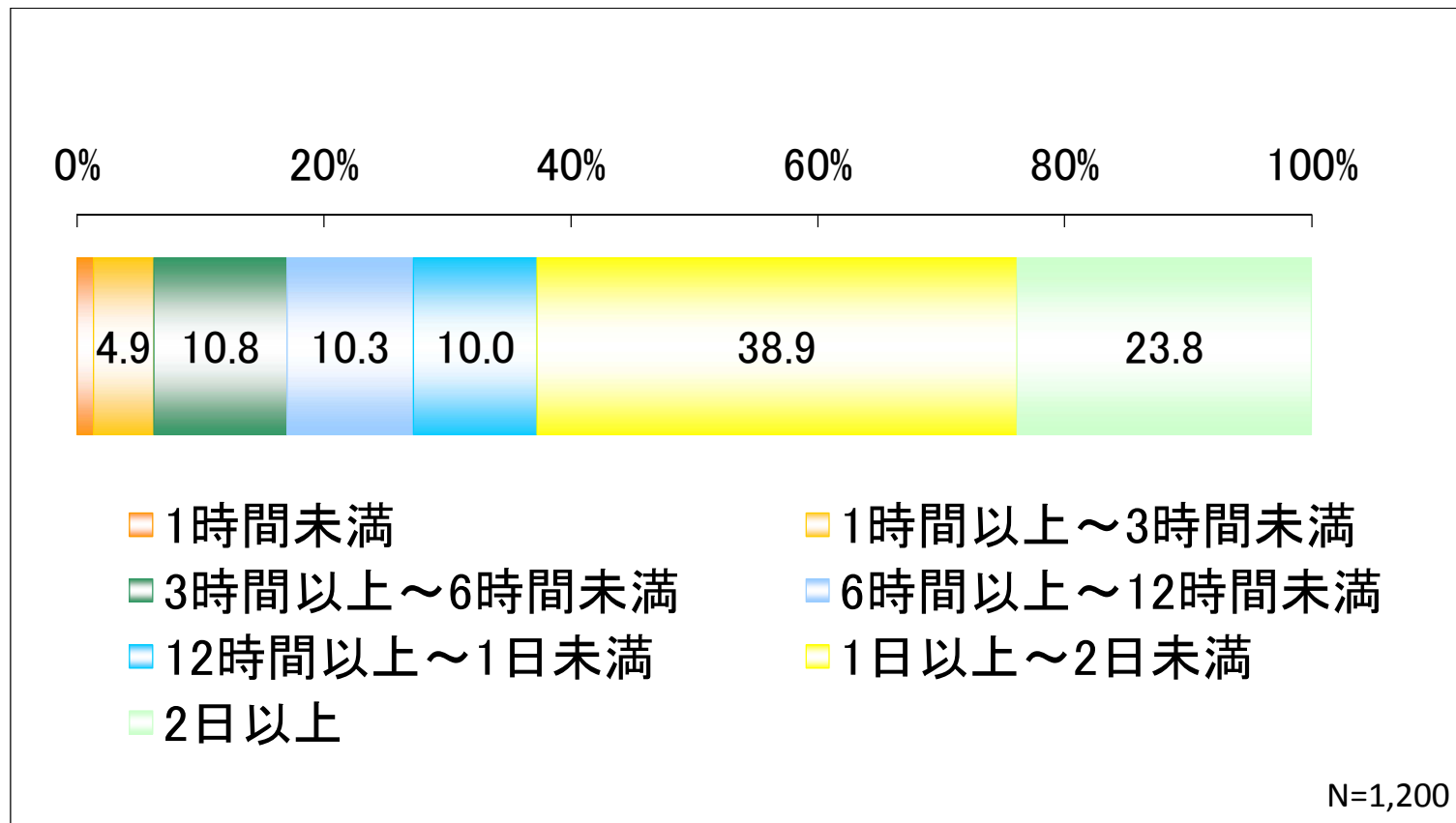
- 全体的に「6時間未満」と回答する割合が最も高く、「6時間以上1日未満」と併せると約9割を占める。



①インターネットアンケート 結果概要

南鳥島に到着した際の、適当な滞在時間

- 全体的に「1日以上～2日未満」と回答する割合が最も高く、「2日以上」と合わせると全体の6割強を占める。

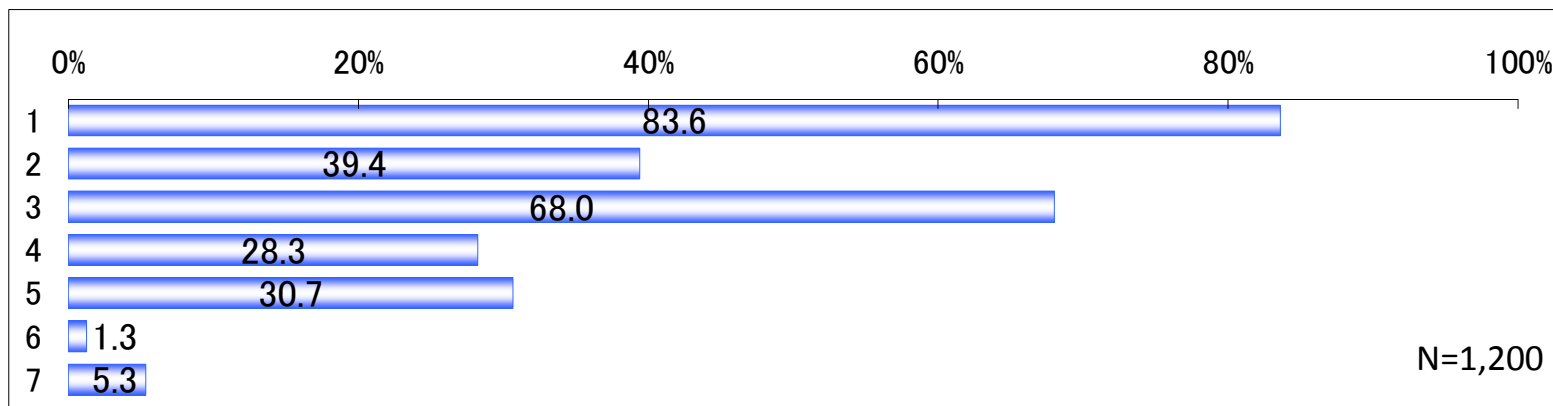


①インターネットアンケート 結果概要

南鳥島に、将来的に設置が望まれる施設

- 「宿泊施設」と回答する割合が最も高く、1日以上の滞在を希望する傾向がある。
- 一方、その他の回答として、環境保全を鑑みて「何もつくらなくてもよい」という意見も目立った。

全体	1200	100.0
1 宿泊施設	1003	83.6
2 売店・土産物店	473	39.4
3 食事・休憩施設	816	68.0
4 海水浴場	339	28.3
5 史料館(歴史・自然など)	368	30.7
6 その他()	15	1.3
7 特にない	64	5.3

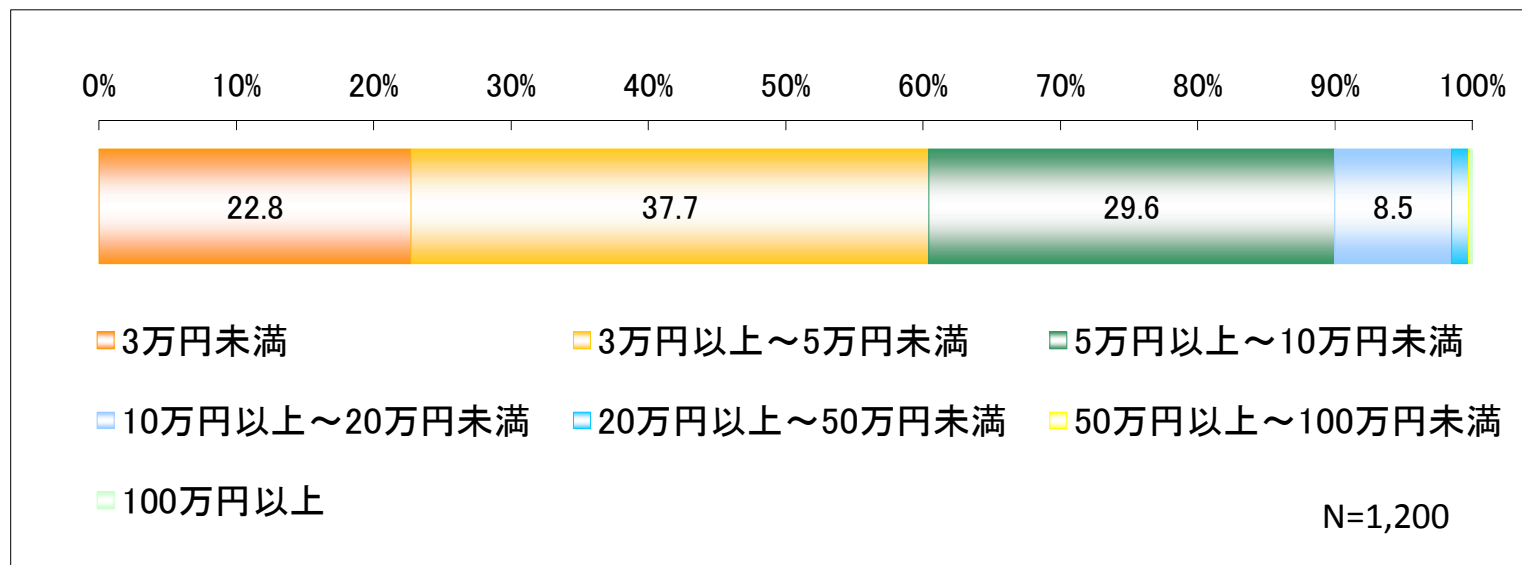


①インターネットアンケート 結果概要

一人当たりの旅行費用の限度額

(南鳥島までの移動手段や、到着した後のアクティビティ、滞在場所など、十分な条件がそろった場合に、一人あたりの旅行費用をいくらまで支払うことができますか？上限価格を教えてください)

- 「3万円以上5万円未満」と回答する割合が最も高く、10万円未満が約9割を占めた。



②インターネットアンケート結果を踏まえた、関係者へのヒアリング 結果概要

旅行業者、行政関係者に対してヒアリングを実施。

①南鳥島の認知度向上のあり方

- 観光実施に目途が付いた段階でメディア露出、クルーズ化が実施されてからは「クチコミ」が重要。
- 南鳥島の総合的な情報を提供するプラットフォームが効果的ではないか。

②南鳥島へのクルーズ観光のあり方

- 一般的に上陸できない現状では他の観光ルートとの組み合わせが望ましい。
- 国内クルーズであれば小笠原寄港と併せて、外国観光地と組み合わせであれば、マーシャル諸島経由の南太平洋方面、もしくはハワイ航路の帰路等で通過可能。

③南鳥島の観光資源、南鳥島での滞在のあり方

- 複数の観光資源を組み合わせることで観光の誘引性は高まる。
- 長時間の航海を経て目的地に到達すること自体が、安堵感や期待感の高まりにつながる。
- 島内は2時間程度で周ることができ、観光資源もあるがままであるため、ガイドによる見せ方・伝え方に工夫が必要

②インターネットアンケート結果を踏まえた、関係者へのヒアリング 結果概要

旅行業者、行政関係者に対してヒアリングを実施。

④南鳥島における施設整備

- 自然が観光の主であり、アンケート結果の「環境保全のために何も作らなくて良い」は賛同できる。
- 客船で来訪する場合には宿泊設備は不要であり、ライフラインの補給面からも不適當。

⑤南鳥島を観光地化する上での規制のあり方

- 南鳥島への上陸には、関係機関(防衛省・国土交通省・農林水産省・東京都・小笠原村)との調整が必要。
- 島全域が鳥獣保護区域(集団繁殖地)に指定されているため、環境面の規制がかかる可能性がある。

⑥南鳥島への観光推進上の課題

- まずは観光振興のことも含め、南鳥島の存在を知ってもらうことが大前提。
- 商業ベースで南鳥島での観光が成り立つ方法について考えていくべき。
- 海路利用の場合、安全に乗客を乗下船できる設備(浮棧橋、上陸用小型船)が必要。
- 海路による往来の場合、気象条件の確立論だけで言えば5月から6月がベストの時期であるが、船舶の確保が課題。

2. 海洋の多面的価値の普及啓発に関する調査

海洋に関する普及啓発、情報発信の活動を行っている関係団体へのアンケートを実施

- アンケート実施対象

海洋の多面的価値に関連する普及啓発の取組を実施している団体を対象。

⇒67の団体より回答を回収。(回収率 約71.2%(67/94))

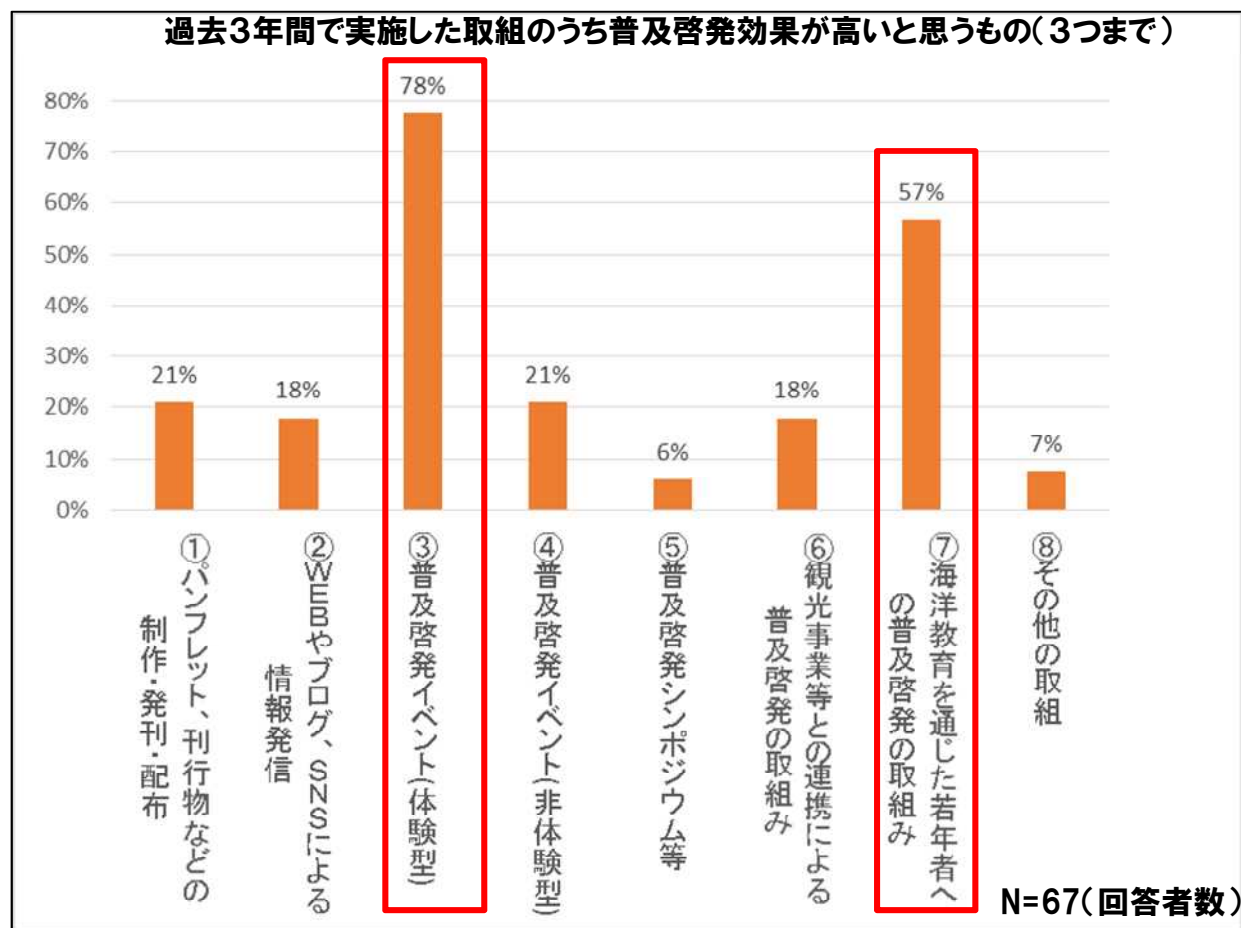
- アンケートの設問

- 普及啓発の取組種別
- 普及啓発の取組内容
(名称、対象エリア、対象者、成果・実績、工夫点、今後の継続意向)
- 海洋に関する普及啓発を図る上での課題
- 普及啓発に関する取組方針や工夫点

アンケート結果概要

若年層(子供～30代位までの若年層)の海洋に関する理解と関心を高めることに寄与すると思われる普及啓発等に関して、過去3年間に実施した取組(3つまで選択)

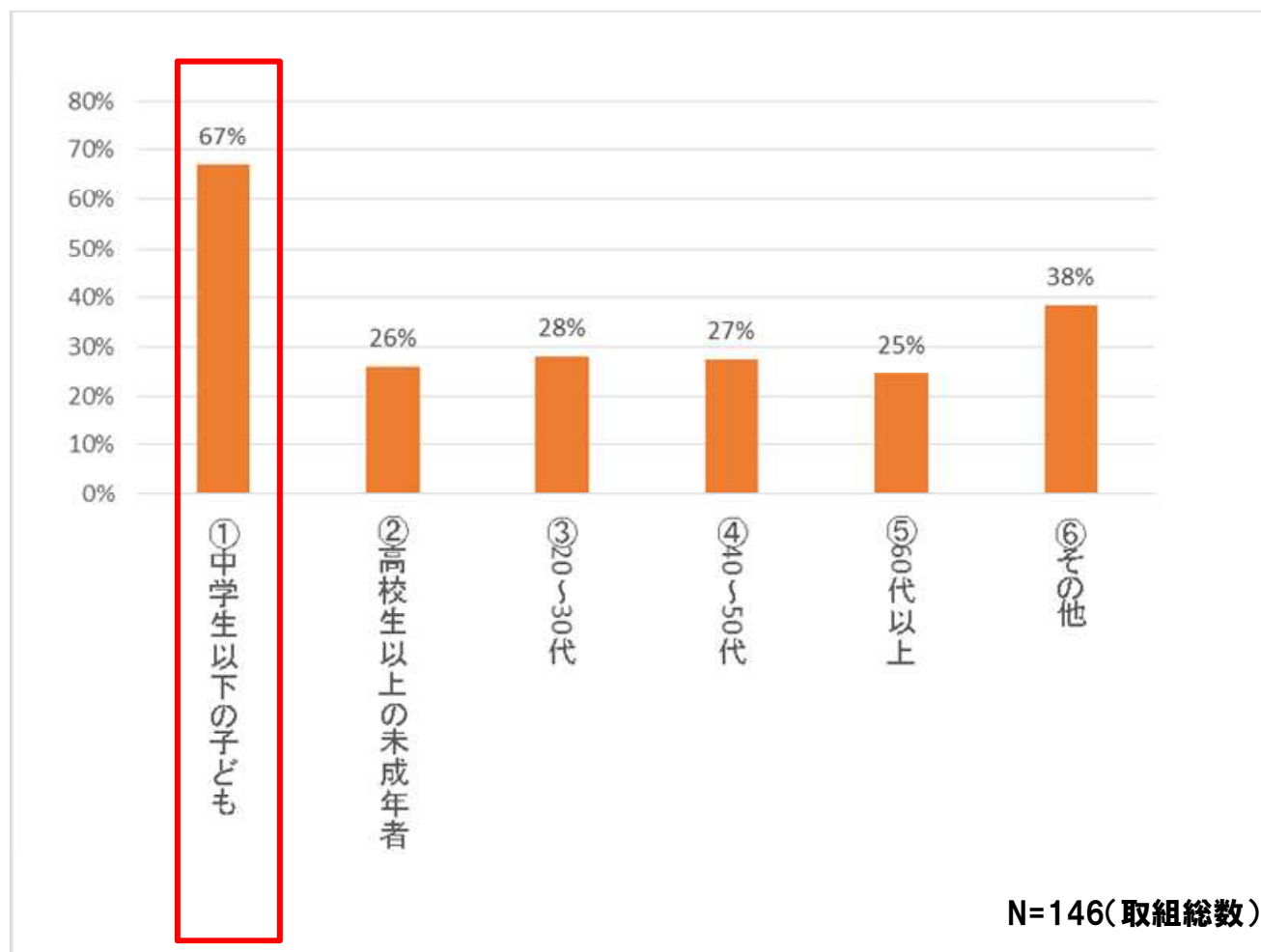
- 「体験型の普及啓発イベント」が最も多く、次いで「海洋教育を通じた若年者への普及啓発の取組」となっている。



アンケート結果概要

普及啓発に関する取組を行う対象者の年代(複数回答)

- 「中学生以下の子ども」が最も多い。
- 一方、その他の年代を対象とした取組は各々3割以下に留まっている。



アンケート結果概要

取組の実施主体別に見た、主な回答

主体の種別	取組の特徴・工夫	課題等
国 (運輸局、開発局、地方整備局、海上保安庁)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>国の船舶を活かした港内クルーズや体験航海、公共施設を活かした施設見学会</u>、海上教室、学習会などが多い。 ・子ども向けのイベントではクイズやスタンプラリーなど、制作物にはイラストなどを多用するなど、参加者を飽きさせない工夫をしている。 ・<u>教育委員会や校長先生との連携</u>にも配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親しむべき海の環境が荒廃してきている。 ・学校側は協力的である一方、<u>教材資料が不足</u>。また、<u>啓発を行うための人材を教育する</u>必要もある。 ・<u>他官庁や地元自治体との連携、学校教育の現場では社会科見学や総合学習の時間を活用</u>することも有効。
外郭団体 (公益法人、独立行政法人)	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教室や学習資料提供、作文・絵画コンクールなど、<u>教育プログラムと連携した内容</u>が多い。 ・<u>教育機関や、地元大学・関係機関等との連携による取組</u>を心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>会費収入の減少やマンパワー不足</u>を挙げている。 ・学校の授業に団体の活動を取り入れてもらいたいという要望が目立つ。 ・<u>企業や他機関等とも連携した「実践型事業の取組み」が若年層の取り込みに有効</u>との意見がある。
地方自治体・公共マリーナ	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>船舶を使った体験航海や、港湾の施設を利用した見学会、学習会、シンポジウム</u>等を実施。 ・<u>地域密着型の取組み</u>(フォトコンテスト、マップづくり等)が目立つ。 ・自治体単独でできることが限られているため、<u>国の機関や市民団体、NPO等と連携した総合的な取組</u>を実施するよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金の確保や、連携するパートナーの都合等によって取組が左右される。 ・若年層のニーズ把握や、効果的な広報手法が課題。 ・<u>国や関連機関、市民団体との協働など、多様な主体との連携を重要視</u>している。

アンケート結果概要

取組の実施主体別に見た、主な回答

主体の種別	取組の特徴・工夫	課題等
学校 (海上保安学校、海上技術学校、商船高専、大学等)	<ul style="list-style-type: none"> ・練習船や教育施設を活用した体験航海やオープンスクール、職場体験受入れ、出前授業などの取組が目立つ。 ・他の教育機関(大学、水族館、専門学校等)との連携による地域の海洋教育をテーマとした事業がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算不足で取組実施が厳しいという回答があるが、継続意向は高い(22件中20件)。 ・地元小中高校生への海洋教育の機会創出や、関心喚起に対する問題意識が高く、他の商船高専、大学、海事関連機関、自治体等との協力関係の構築を求めている。
商工会議所、観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・海藻やサンゴなど観光業と連携しやすい素材の活用や、水産業との連携による取組が目立つ。 ・自治体や大学と連携し、海洋への普及啓発に関する新たなターゲット(20~30代女性等)を取り込む試みを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元事業者のメリットに配慮しつつも、地域住民との協働を心掛けている。
一般社団・一般財団法人、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが所有・管理している旅客船による旅行商品造成や、ゴムボート操縦体験による親子の触れ合いなど、顧客・市民への還元事業として実施する取組みが中心。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの海への関心が低く、学校との協力を試みるが、主体によってはうまくいかない例がみられる。 ・予算は厳しいとしながらも、継続以降は高い。(13件中12件)
協議会、実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体や海上保安庁などが中心となり、様々な主体がネットワークを構築した協議会や実行委員会組織で、海洋清掃、海洋環境の問題に取り組んでいることが特徴的である。 ・親子、若年層が気軽に参加できる、環境保全や水産物の活用などの取組み等を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民における海や海洋環境の保全(海洋清掃)への関心が低い。 ・水産業や防災など様々な視点による活動もみられる。

アンケート結果概要

事例① 「ビーチヨガ」 NPO伊豆のせんたんコンシェルジェ

(アンケート回答者は下田市観光協会)

- 静岡県下田市の多々戸海岸において、7月～9月の土日に開催
- 1回につき20名を定員としており、ほぼ目標数を達成
- 20代～30代の女性をターゲットとし、女性向け雑誌等に情報を掲載



出典：下田市観光協会HP

アンケート結果概要

事例② 「県内の海岸清掃とブログによる定期的な情報発信」

沖縄クリーンコーストネットワーク(OCCN)

事務局:第十一管区海上保安本部環境防災課

- 沖縄県内における海岸清掃情報を毎月4回程度ブログで発信
- 海岸清掃に参加するボランティアは年間1万人超かつ年々増加
- 情報発信の際には親子で海岸清掃に参加している画像を多用
- 大人が清掃作業を行い態度で子供達に示すことが大切
- 地元住民の海洋清掃への参加が少ない⇒地元住民への理解を促進

※沖縄クリーンコーストネットワーク

- ✓ 沖縄の豊かな自然を守っていきたいと願う人たち（行政、各種法人、ボランティア団体、マリンレジャー団体等）が集まったネットワーク
- ✓ 参加メンバーが会則・規約に拘束されることなく(会費もなし)、自由に活動でき、情報の共有など効果的な活動のため、緩やかに連携することを目指している



出典:OCCNホームページ URL:<http://blog.canpan.info/occn/>

アンケート結果概要

事例③ 「スマートフォンアプリ『みなとめぐりマップ』」 横浜市港湾局

- 横浜港周辺の施設情報等を発信するGPS連動型の情報発信アプリ。
- 子どもに親しみやすいようなオリジナルキャラクターをデザインし、各施設で異なるキャラクターコスチュームを集めることができる。



出典：株式会社イーツー・インフォ

アンケート結果概要

事例④ 「鳥羽市海洋教育フォーラム」 鳥羽市教育委員会（回答：鳥羽商船高等専門学校）

- 鳥羽市の海洋に関わる8団体が連携し、「鳥羽市海洋教育フォーラム」を開催。
- 鳥羽市の海洋に関する教育活動を各業界が紹介し、産学官連携のネットワークづくりを通じて、地域の特色を活かした人材の育成を推進することを目指す。

※今後行われる全国海洋教育サミットの縮小版として、全国に先駆けて行われたもの

【参画団体】

団体	発表内容
鳥羽商船高等専門学校	「特定NPO法人 故郷の海を愛する会」の紹介
鳥羽海上保安部	業務の紹介・一般公開の推進
伊勢湾フェリー	全日本海員組合主催の伊勢湾発見体験クルーズの紹介
ミキモト真珠博物館	子供達のモチベーションを高めるにはどうするかを紹介
鳥羽水族館	子供達を対象にしたイベント数点を紹介
海島遊民倶楽部	エコツアー・子供ガイドの育成について紹介
島の旅社	浮島の自然水族館を紹介
海の博物館	磯の生き物観察・アマモの育成・浦村牡蠣の養殖と作業方法を紹介